

大正六年十月八日寄
高田早苗氏贈



弓法用方極秘傳書



一 馬工の弓は立直か池八文字の
踏切り尻右前後並に射し
馬工もその書もその方いそぐ也
歌と弓は小じんら極上家し鞍
装のよ繩有は傳

一 弓矢納極は弓は尻尻に極上
矢ととも小細めの中也は傳

一 雲法と云は法と弓也その弓は
臂と入てくらの箭梅はれし身
しら也法と弓はしらと
あらす

一 地法といふはうらまの地小押射
右と膝よりけりてんら也

一 火矢格極は性の能竹守の方
四拾目灰の信目

一 火矢格極は性の能竹守の方



雲のよ繩有は傳

一 弓矢納極ハ弓矢は統上帝に授
矢とも小繩の中也は傳

一 雲法と云ハ法と弓也の弓(或は
臂)と入てくくの糸悔はたし針
とら也法と弓ハ糸と針と

一 地法といふはうゝを地小押付
右と膝よりけりてんら也

一 火矢茶の事 始猶七信目流黄
日拾目灰の信目

一 火矢拵極ハ性の能竹守の方方
程かして先と矢の根のこく
中の茶拵細く削りて其の先と錐
忌ふとく水のわづらとて扱茶と
紙よ包がぬを中より洗絶茶入て
り——は茶ハ洗絶と茶と細かして
茶拵先よりの方入るやの扱火茶
中包封てねん手い糸とる事也也を
口傳

一 火矢射極ハ事 射付の早と思取ハ
本れ矢又ハ洗絶打絶射付は也人
をたれにしてとく考て射ハ五拾
弓一可一日当道も流と知一も也
つよとのいふをふやのハ歌火矢と
消まを秘事——まの矢ハ也
子ハしは傳

琵琶付てのる手い糸の事あく世を
口傳

一 大矢村振事 村付の年と思ふ
本此矢又ハ流地打地村子と人
をたをいしてとくあつて村に五拾
町一町一日当道も此と知し
つふとのいふをふやハ一歌大矢と
消よくまを秘事一この年の矢ハ
手いハ口傳

一 歩の武者目付の事 右左たり
細と目付應 必す此のめと急流

一 馬と目付 前ハハ鞍のまの備の事
と右左ハ孫が 一れとなす

一 具足之志 村振の弓と扱也 桐
教も小弓やして中入るも弦
あつて小弓の弓中弦と
横の苗も居る小村に 徳が
弓の孫と記すも村の秘事

一 志げと村振 いたく是を草と
扱も村の茂とよそハ細く
小手根矢羽と逆ねよかして
村

一 歌小庭てのる流の事
川くハ又ゆらあつていゆるめ
そ目小庭付くも年必を矢と
放 歌小庭 一とんからたき

その目小紙付く事一必を矢と
設く一歌が為く一むんかうたき
一しと知す

一 いとめな事平尾のいりたるこの
細報を付す一紙の紙はきあ
取ははと付付す一必きあり
中ほはらと根をくしり一(其の
按てと二三らそく一)口切を
鳥歌付らふといとめい用紙也

一 矢文と事平紙より事平書と
矢小尾は採矢くても括矢を
付す一鳥

一 矢ぬ小橋矢用紙の9矢付ると
唱す一(矢中)一歌不審ととそく
入らぬふくやくん付らふ

一 矢中のみ文墨書の中平のめらと
のれとま(の)のめと存す羽中よ
主人の若走と羽のぬ小枝名と
書せ

一 矢さぬ切板の目と廣くめんとな
下の切し一(その)おと深くめんれ也
そととさぬのりんちく一(さぬ)さ
切す者さぬのりん小尾ならさぬ
よさら也大形付てんて紙紙よ
さらす一(さぬ)ぬのれとめくより
切あく寸ハ大板すハす横すあり
さすしとも付よの略よ小切な也
毎の口難の口らさり口とさふさ

一 矢横すはあらら付よのた
国くすも也印も也内あか

一 矢捷者く所あらう村女の坊口
園くまも也卯をく月あぢくん
山江ハ夫山舟と知す

一 愚ひらの事一是ハち打の所
良のふも浩村ハハ法書を
志より取打ひし

一 海下き時村振矢捷者く下府
又諸幡を所さふを危いあひ
田のち器(蓋)のこより村紙平

一 嶺中村振ハ夫(操)ととく
夫ハ村(大)授(口)傳

一 矢捷者内就事一能村
夫さぬえ(う)とと時ハを夫
さぬ斗種(ひ)と三人と十今えと
村也凡(そ)とぬとちれ也

一 矢捷者とあらうの先
中台向の敵とハ村すして筋
返て村也(法)地回りの(法)入凌

一 遠矢大授(村)振ハ夫
村也也

一 志河(と)よりい(と)振ハ夫
以中振書(と)振と打更(と)り浩
村矢(と)ぬ(と)に(と)人(と)せ(と)ち(と)
小村(と)中(と)之(と)傳

一 志河とよまらひとを振八あり
以中崎書と梳と打史小弓浩
射矢さぬとにを人つさせちの
小村さ中への傳

一 早法とよ小軍陳又旅行
なま小法地射小急又何社も
つら出来やと小女ら草と葉
たしなま指と地小八人むす武
江久小ちささ梳と打とこと
危らととくけとぬと小まこ
流小をむしとととかけを流を
つこのこととととととととと
と傳

一 急な矢取急の敵門より印
何社と小我前打とよととを
歌(村を)

一 平城山城矢すの切坂平城
歌の地形言く小矢さぬ言く切
な一山城を歌也足流さハ
むまく切た(歌)かひとと
内を矢い小むれを扇多と首持

一 矢さぬの結と急とさぬとを
流さぬ切と印とぬとふとと
空也也歌と旗表とを流

一 掃蕩と中平たのとととと
りちと村急史を和射村が

一 播磨に本年為のどり(是等)りちりし村を以て村に對し

一 軍陣同様に中少くならぬ 昔より
舟よりいさゝか軍士をいさゝか
本年よりいさゝか軍士をいさゝか

一 弓小銃其のより控の下に付て
吾れは亦も本年反し 也

一 近くして大根をいさゝか敵村にち
をいさゝか小根のありていさゝか
是れちり二三日の内にいさゝか大根の
根していさゝかいさゝかいさゝか
河に

一 弓小銃其のより控の下に付て
云々の河にちりていさゝかいさゝか
時を陽のちりていさゝかいさゝか
いさゝかいさゝかいさゝか
か

一 靱は速く本年いさゝか控をいさゝか
見(は)る(は)いさゝか

一 矢をいさゝかといさゝかいさゝか
是れちりいさゝかの矢にちりいさゝか
改めし(は)いさゝかの矢をいさゝか
村(は)いさゝかといさゝかいさゝか
弓(は)いさゝかのちりいさゝかいさゝか

一 矢(は)いさゝかといさゝかいさゝか
いさゝかといさゝかいさゝか
いさゝかといさゝかいさゝか
いさゝかといさゝかいさゝか

一 矢仍りし出——根と云ハ細き木
として其行をさす根の方をさ
し根をぬき去りたりをさして根の勢を
とる方より常の根を断り別
しかけし又試をす其の根を断る
と物なり

一 耐性の根——之根性の能行と
本なりぬきけつり小穂を食
し其物よきことありは其道の
根よりととり中なり

一 軍陳より入りしをさすは其方の
より是ハ何れなり——ても敵を三
軍とて川村村れいもの能なる所
又その池なりをさすものなり
流をさす小川をさすは村に
たるはさすものなり——根を
し其根をさすハ一箇半程あり其
小かさなるは其の耐性も一皮をさ
すものなり又た根性をさすもの
根性中より耐性をさすは其
矢出たりともおれぬなり

一 軍陳強りしをさすは其方の
同の式をさすものなり——必二
耐性

一 おひらのの根も枝ありしを
中耐性をさすは其方の耐性を
早く耐性

一 強弱と云は其方の耐性をさす

一 陸奥と云ふは中野陸奥守の領地をいふ
はくをて村々と云ふは心をたぐる者
必死欲討たぐはくそ村中を我
やめて我と入包——軍陣を一番
引と云ふ事（我を毒武者
又一番二番の陸奥ははせむと
しむる包——一番首武者と云
吹雪小姓の陸奥と云ふ事（包をた
法不有る書帛は信をこ

一 矢よと敵討たらぬと云ふは
敵をけと山林に居ると云ふは
矢と村のふれは敵のあり（竹ハ
かまへは任然と云ふはとて人
この包は信をけと村の根と
ぬき先残は信と村の物也（
とあるは——くなりとる也

一 夜のはん事敵方のけり者（平
と云ふ——と歩ををうらと
白け之のたふらぬ是もむ付て
村のこの包は矢と云ふのと信（
一 陸奥守を村に包のこ——
たたら敵と約け実出た村の
の是と云ふ（むと）村の是と云ふ
ゆてとあるしてと云ふは（信）
つとむらむららう——信は
付らぬ也

一 割漆といふはと割らと漆と
付たところの信

一 信くといふ割漆といふは子の漆と
之信と云ふのは信と云ふは

一 活くるとい割縁と、馬子の法と
之法と記すの節は漸中よりたどり

一 あつて目付の並なれたる事見ハ
らと刈ぬくめ為の草為目付と
一 一て由(ま)まうへハ亦方往ふ
一 けりむをゆえんとしててこかくけ
あつる心持として為草よのりやと
むるあ——ヤム

一 野中翹と云文見ハ小ヤキ谷小糸と
けりこの縁は付矢と常より感上
さ——と——物こ口傳

一 活く打心物と云られ向はうの
上小澄が——とわ之緒一帖七人守
ののんまんと練軍流小用類とを
しけやや小ま糸の家小て秘法也
史ある杖たるしと云者利根彼は
と矢活中も杖たるしの方小ま糸と
のむハ握りて彼の由(こ)こ——のヤム
口傳

一 活くゆ——小大根射る事見ハ人
居指このむらちうおは矢ありた
揚技奴たむことと史小矢ととたせ
射るこ口傳

一 蹄伏のり見ハ中り小梅は防
矢小射るこ上城山雨雲と九世と
矢女の活中りつと致る小射る
口傳

一 痛矢取と云——の重の先ハ
の如ことちこく梅を中し抜小
しと致と云——の係小射

一 漏矢ぬき——の車のはかき
の如きとちさく格を中し抜か
し——と敷とあり——の係りて付
上と紙して法保しと心は骨
ぬきしとて持や軍場ぬき入か
たりは傳

一 漏矢ぬきぬ物ののみ毛ぬきぬ
りど付や付さ——の付ぬきぬき
唱酒ぬきぬ法人ぬき付ぬきぬ
矢ぬきぬきぬき——早くぬきぬき
中の花ぬきぬきぬきぬきぬきぬ
かか——と付ぬきぬきぬきぬきぬ
を矢ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
かかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
付ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
は傳り

一 軍法ぬきぬきぬきぬきぬきぬ
毛ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
かかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
中の花ぬきぬきぬきぬきぬきぬ

一 さぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
かかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
下の矢ぬきぬきぬきぬきぬきぬ
おかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
解ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
付ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
は傳りぬきぬきぬきぬきぬきぬ

一 さぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
かかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
下の矢ぬきぬきぬきぬきぬきぬ
おかぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
解ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
付ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
は傳りぬきぬきぬきぬきぬきぬ

一子いし田むけの夏是ハゆう寐うすく
して髪指針小田野山へ
たむけ常のこくくやしてまた
急坂附の人四心のをうに試折指
付付下下一版よ

一插指のより矢の管小糸と針の
他矢ふふら物こそ糸と管小
指針針矢の根如延田かして
その常のこくく付は管小糸
ハ根針こそ物こそと針の
よふ糸下下よふ糸よふ糸
さのこく糸事おちへはは指

一丈川根後一の事是ハ川出まう
向ハ通はぬがはは針周矢の管小糸
のないう尾のこくくなら如延田
糸と付向ハ付後一こそ糸と
大根付向ハ川後一はは針
そののこくく糸一は指

一船中付指は平ハ紐ちうく足
とをさうものこくく糸一はは針
おく糸こそちうり糸ハは針先と目針
付下下一糸こそちうり糸ハは針
付下下一糸こそちうり糸ハは針
糸こそちうり糸ハは針
糸こそちうり糸ハは針
糸こそちうり糸ハは針
糸こそちうり糸ハは針
糸こそちうり糸ハは針

一 船中村始し本年ハ往ちうくん令
とをさうしものときろづー 夫の歌
物く舟をさり舟のハ尾先を目的
村ー 舟をさりに舟をさると
村ー 左右同ちと名をぶー
舟をさる久又まて村の時ハ舟の
歌物ハの是と糸(ま)出(波)の
り記志(の)こ小付て歌と村ー 杖
かー 切を(時)ハ歌と村(小)越(は)と
ん(は)こ(ま)ち(を)細(い)村(は)は(傳
一 留法物事常の矢をわけやん
ぬ(の)法(と)ぬ(し)こ(と)物(ー)り(り)
け(の)ハ(ま)れ(歌)用(知)れ(ぬ)ぬ(さ)ハ
け(ま)ち(物)こ(じ)り(ー)ハ(法)是(と)云
お(ま)ま(さ)し(る)物(と)云

右六拾二箇條諸流と加法軍
書とありー(り)れ(一)毫(と)徳(置)所
法と次人(次)中(小)穿(鑿)と(遠)也(り)
所とよ(て)能(と)和(道)雪(家)門(成
ち(っ)と(給)ふ(ー) 仍(如)件

ち山布衣

渡辺 程塊

右の二語より一仍此件

高山市右史

渡辺程塊

大村建七郎

安永七戌年

心了公有



五

大村次郎殿